

岩手日報

2024年(令和6年)2月11日(日曜日)付 (18)

命守る教え先輩から 山田中で八戸工大が授業



液状化現象を再現する装置で災害への理解を促す堀合紳弥さん(右)

山田

八戸工業大は7日、山田町織笠の山田中(八幡

一臣校長、生徒297人)で防災授業を行った。卒業生で同大学院工学研究科社会基盤工学専攻博士後期課程の堀合紳弥さん(27)が講師を務め、命を守る教えを伝えた。

堀合さんは2年生88人に、東日本大震災や2019年の台風19号豪雨などを説明し、防災の視点から構造物の役割を話した。災害時でも日常の延長と捉える「正常性バイアス」が逃げ遅れの原因になると指摘し、避難情報に基づく早期行動の重要性も訴えた。

地震による液状化現象を再現する装置で理解を促し、生徒たちは興味深く観察した。小林海士さんは「幼い頃の震災や最近も能登半島地震があり、命の尊さを実感している。災害時は他人の考えに惑わされず、自分の意思で逃げるようにしたい」と約束した。

震災時は山田中2年生で、避難生活を経験した堀合さんは「自分の命を守ることは基本で、大切な人と離れてしまっても助かれればいつか再会できる。互いに助かる信頼関係を日頃から築いてほしい」と願った。

80人は山田小でも防災授業が行われた。

※「岩手日報社の許諾を得て転載しています」